

内容項目名	よりよく生きる喜び（内容項目D－（22））		
資料名	「六千人の命のビザ」（出典 「中学道徳 明日をひらく2」東京書籍）		
学校名	君津市立八重原中学校	指導者名	鈴木 美恵子

1 学習指導案

中学校2年1組 道徳学習指導案

平成29年10月10日（火）5校時

（1）主題名

よりよく生きる喜び

（2）ねらい

第二次世界大戦という不安定な国際情勢の中、外務省の命令に背き、ユダヤ人にビザを発行した杉原千畝の生き方を通して、弱さを克服して力強く気高く生きようとする態度を養う。

（3）主題設定の理由

本主題は、内容項目D－（22）よりよく生きる喜び「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを感じ見出すこと」を受けて設定したものである。日本には戦争の歴史がある。想像もつかないような過酷な状況の中で、人間としての誇りや深い人間愛を忘れず、気高く生きた先人のあり方に触れ、学ぶことは中学生にとって重要な価値があると考えられる。

生徒達は、戦争の直接体験が無いものの、平和学習や新聞、テレビなどを通し、それがいかに人間性に反するものであるかを頭の中では理解している。しかし、戦争がいかに悲惨であるか、むごいものであるかを実感していないというのが実情である。また、色々な軋轢を避けて自分の意見を言わないという傾向も日常生活の中で見受けられる。だからこそ、この事実を通して、困難な状況においても自身の信念を貫き通せる心情を育てたい。本資料は、第二次世界大戦開戦直前、戦乱の中にありながら、外務省の命令に背き、「人を助けたい」という強い信念を持ってユダヤ人を助けたリトアニア領事官杉原千畝の話である。ナチスの迫害を避けて逃げるユダヤ人に、本国の指示に背き、帰国までビザを書き続けた彼の苦悩と決断が描かれている。

本授業では、千畝の葛藤している場面を取り上げ、「ビザを発給すべき」「ビザを発給すべきではない」いずれかの立場を問う中で、自らの信念と外務省からの退去命令に苦悩する心情に迫りたい。さらに、本資料P169にある「汽車が走り出すまで、窓から身を乗り出して夫はビザを書き続けていました。」「許して下さい。私にはもう書けない。みなさんのご無事をいのっています。」と謝る千畝の姿を通して、内なる自分に恥じない誇りある生き方に気づかせたい。そして、弱さを克服し、より良く気高く生きようとする価値形成に迫りたい。

（4）展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導入 (5)	1 前時の復習をする。 ・第二次世界大戦中、ドイツと日本は同盟関係にあった。ユダヤ人はナチスに迫害されていた。		・杉原千畝が葛藤するに至るまでの時代背景を理解させるため、教師が説明し、要点を黒板に貼る。

	<p>2 資料のあらすじと、杉原千畝が置かれている状況を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユダヤ人が迫害から逃れるには日本の通過ビザを取得して第三国に出向するしかないが、日本政府は発給を認めていない。 発給しなければユダヤ人の命の保障はない。すれば国に命令に背くことになり、自分や家族の安全も保障されない。 		
<p>展開 (35)</p>	<p>3 杉原千畝の立場になってビザ発給について考える。</p> <p>◎あなたが、杉原千畝の立場だったらビザを発給しますか、発給しませんか。それはどうしてですか。</p> <p>4 よりよく生きる喜びの価値形成に迫る。</p> <p>○困難な状況にも関わらず、汽車が走り出す直前まで窓から身を乗り出してビザを書き続け、さらに「許してください」と深々と頭を下げる千畝の姿をみてど</p>	<p>ビザを発給する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 見殺しにすればひどい人だと思われる。 ユダヤ人には責任はない。ナチスや日本政府こそ考え直すべき。 なぜ発給すべきか訴える。自分や家族も迫害されるかもしれないが、ユダヤ人を救うことにつながるかもしれない。 <p>ビザを発給しない意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本政府に罰せられる 日本に帰っても良いことはない。損をするだけ。 自分の家族も危険にさらすことになる。家族を守るのは千畝にしか出来ない。 ドイツとの関係を考えれば、日本国民を危険にさらすことになる。 悪いことをしていないのに、頭を下げる程、人命を救う姿勢に感動した。 杉原さんは本当に心優しく、温かい人素晴らしい人だ。 	<ul style="list-style-type: none"> 発問はフラッシュカードにして黒板に貼る。 意見の変容を観察するため、発給する、発給しないを挙手させ、結果を板書し示しておく。 杉原千畝が葛藤した心情に迫るために、両者の意見を聞き、板書する。 全員が話し合いに参加できるようにグループで討議の時間を設ける。 「発給する」という意見が多数を占めることが予想されるが、少数派の意見とその理由をしっかりと抑える。 <p>☆ビザを発給するか、しないかを自分なりの考えをもって話し合うことができたか(ワークシート・発言)</p>

	う感じますか。		
終末 (10)	5 本時の感想をワークシートに記入し発表をする。 ○今日の授業で学んだ事を、これからの自分の生活にどのように生かしていきたいと思いませんか。 6 子孫を含めた救われた人の数(32,000人)を静かに話す。	・人の命を助けることができる勇気を持った大人になりたい。 ・自分も杉原さんのように、人に優しく接していきたい。 ・自分の役割を責任を持って果たしたい。 ・人の命を助けることができる勇気を持った大人になりたい。	・他者の考えに触れ、多様な価値観に気付かせるために発表の時間を設ける。 ・より良く気高く生きようとする価値観を持たせるために静粛な雰囲気伝える。 ・意見の変容を確認するため挙手で発給の有無を聴く。 ☆今日の授業を日々の生活に生かし、よりよく生きようとしているか。 (ワークシート・発言)

(5) 他の教育活動との関連

社会科の授業の中で、第2次世界大戦と当時の世界情勢について学習し、その歴史的背景の中で生きた杉原千畝の功績について学ぶ。

2 事後検討会

(1) 授業記録

- T あなたは、ビザを発行できますか、できませんか。ビザを発行できるという人、手を挙げて。(挙手の数を数える)
- では、それぞれの意見を班で話し合ってください。
- T 話し合いの様子を班でまとめて発表してください。
- S 発給する側としない側の両方がいました。発給する側の人は、ここでビザを発給しないで日本で生きていくより、ユダヤ人の人を助けてから日本に戻り、「なぜすぐに退去しなかったのか」と言われた方がいい。しない派の人は、わざわざそんなリスクをしょってまで助ける理由はない。自分の身を助ける方が先だという意見が出ました。
- S 国の命令に逆らうことはできないから発給できないと考える人もいました。
- T 国の命令だから仕方がない。実際にこのような状況だったら悩むでしょうね。
- S 発給するに賛成の人は、自分一人が助かるよりも、自分は死んでしまうかもしれないけれど沢山の人が助かったほうが良いという意見でした。しないという意見の人は、発給したいという気持ちはあるけれど、結局自分を優先してしまうという意見でした。
- S ユダヤ人も同じ人間として助けないといけない。この人は領事という役職だから、自分しかできない立場と使命感があると感じて発給したのだと思います。家族や自分の命が失われてしまうから、自分たちの命を助けたいから発給はしないという意見もありました。
- S このような緊迫した状況の中で行動できる勇気や行動力が無いという意見が出ました。
- T 実際難しいでしょうね。本当に悩むと思います。でも、この方は発給しました。そして汽車が走り出す寸前まで書き、さらに窓から身を乗り出してビザを書き続け、もうこれ以上書けない「ごめんなさい。」「皆さん許してください。」と言って頭を下げた。この姿をどう思いますか。
- S 私は途中であきらめてしまうかもしれないのですけれども、自分の命より他の命を救おうと出来る限りを尽くそうとする姿がすごいと思いました。
- S 最後まで人の命を助けようとしていて、とても優しく、覚悟のある人だと思いました。
- S 沢山のビザを書いているのに、最後に「許してください」と言っているのだから、この人は全員の

ビザを書こうとしていたのだと思いました。

T 全員の命を救いたいと考えていた千畝さんをどう思いますか。

S 勇気と優しさにあふれていて、心の底から温かい人だと思いました。

S 一人でも多く、全員を助けたいんだと感じました。六千枚も書いても、達成感が一ミリもなく、そうやって妥協をしなかったから六千枚も書けたと思います。もう書けないとなった時に「許してください」と言っている。普通の人なら六千枚も書いて満足すると思うけれど、この人はまだ助けられない人がいたという感覚で、そういう考えになるこの人は、すごく格好いい人だと思いました。

T 今の気持ち、自分の気持ちをワークシートに書きましょう。あなただったらビザを発給しますか、しませんか。そして、今日の授業の振り返りまで書いてください。

(生徒は、プリントに自分の考えを記入する。)

杉原千畝さんは、六千枚書きましたけれど、その子孫の方たちが増えています。三万二千人になっているそうです。六千人の命を救ったことで、三万二千人の命を救ったのです。

(2) 授業の感想

(生徒の感想)

- ・こんなにすごい人がいるなんて思わなかった。同じ日本人に生まれたことを誇りに思います。
- ・杉原さんは、すごく勇気や覚悟、優しさを持った人だと思いました。
- ・他人の命を全力で救えるような素晴らしくて温かい人になりたいと思いました。
- ・私は、一人でも多くの命を助けたいと思うけど、心の奥底では、多分自分は助かりたいという気持ちがあると思いました。でも、千畝さんの思いによって私は動かされました。私も人の役に立つ人になりたいと強く思いました。
- ・見習うべき姿がたくさんありました。杉原さんのように心の底から温かい人間になり、医者になりたいという夢に向かって頑張りたいと思いました。
- ・杉原さんの素晴らしさ、優しさなど、全てが伝わってくる授業でした。私はみんなの命を助けることはできないけど、自分に出来る事一つ一つを真剣に取り組んでいきたいと思います。
- ・この授業で、杉原さんの仕事に対する責任感や使命感に、とても心を動かされたので、自分も係の仕事とか小さなことでも、もっと責任感をもとうと思いました。
- ・今回、命の大切さとともに、勇気と優しさが多くの人々の命を救い、世界をも変えられると学びました。千畝さんほどの強い気持ちは、なかなか持てないと思うけれど、自分なりに勇気と優しさを持ちたいと思いました。

(保護者の感想)

- ・世界での日本人の活躍等、生徒たちは理解し意見を発表していて感心しました。子供たちも態度が良く、素晴らしかったです。
- ・千畝さんの行動や言葉から、千畝さんの人となりや心情を感じ、言葉にして発表できる子供たちに感心しました。日々いろいろなことを頑張る中から、相手の気持ちを想像したり思いやりたり、尊敬することを学んでいるのだと思います。中学2年生って立派だなと思いました。
- ・人のためにある程度までは行動できる子は多いと思います。でも、今の時代の子供たちに、そこまでの気力・スタミナ・環境が整っているのだろうかと思っていましたが、発表内容を見たら、頼もしく立派に感じました。将来が楽しみです。
- ・六千人の命の「ビザ」はとても感動的なお話で、人のために何かを一生懸命するという心を学ぶきっかけになったと思います。

・時代背景などを考えると中2には少し難しい題材なのかなと感じましたが、逆にそれが発想を自由にさせた気もしました。人には沢山の考え方があり、その時の立場や状況で何を優先するかが違うことが分かったと思います。

3 本事例の活用に関する留意点

(1) 第二次世界大戦とユダヤ人の置かれている状況についての学習

第二次世界大戦に関する学習は、中学3年生で行うので、生徒はまだ知識が浅い状態であることから、この題材を2時間扱いとした。1時間目で第二次世界大戦とユダヤ人の置かれている状況、ビザをもらうという事はどのようなことなのかを大まかに学習し、初発の発問に対する自分の考えをプリントに記入してから本時の内容に入った。

(2) 心情の変化の可視化

ビザを発給するかしないか、行動は二者択一であるが心情は複雑である。微妙な心情の変化をわかりやすくとらえるために、ワークシートに目盛をつけて、どちらに偏るかを見えるように工夫した。これによって、生徒も考えやすくなったようである。

六千人の命のビザ

R : _____ 番号 : _____ 氏名 _____

1. あなたが、杉原千畝の立場だったら、ビザを発給しますか、発給しませんか。それはどうしてですか。

<<発給する

発給しない>>

2. 困難な状況にも関わらず、汽車が走り出す寸前まで窓から身を乗り出してビザを書き続ける姿を、どう思いますか。

3. もう一度聞きます。あなたが、杉原千畝の立場だったら、ビザを発給しますか、発給しませんか。

<<発給する

発給しない>>

4. この授業の感想を書いて下さい。
